

# 私の学校自慢

日立市の小・中学校には、学校独自の魅力や特徴が数多くあります。

今回は、助川小学校と中小路小学校の児童が、自分の学校の魅力や特徴をご紹介します！

## キラリがいっぱい助川小学校

助川小学校は、助川海防城というお城の跡地にあり、明治・大正・昭和・平成・令和を生きてきた「五代桜」があります。そんな歴史ある助川小学校の魅力を2つ紹介します。

1つ目は「学校子ども会」です。地域の方と地区ごとに班をつくって、昔遊びや班ごとに計画した遊びなどを行います。地域の方と交流できるだけでなく、たて割り班での活動なので、他の学年にも友達が増え、一緒に遊ぶきっかけにもなっています。

2つ目は「キラリ」を見つける活

動です。キラリとは、その人のキラリと輝くところという意味です。友達のすてきな行動を帰りの会で紹介したり、アンケートに書いたりしています。そして校長先生から年に一度、一人ひとりにふさわしいキラリ賞が贈られます。周りの皆に自分のキラリを見つけてもらい、自分に自信をもつことができ、友達のすてきなのところも発見できる、とても良い活動だと感じています。

他の学年や地域の方との交流が盛んで、お互いの良いところを見つけて認め合える助川小学校は、僕の自慢です。



助川小学校 6年  
佐藤 旦さん



学校子ども会の様子

## 学年を超えて仲が良い中小路小学校

中小路小学校は、創立80年を超えている学校です。そんな中小路小学校には、魅力が3つあります。

1つ目は、他の学年と交流が活発に行われているということです。中小路小学校は、全校児童が94人と、とても人数が少ないです。なので、休み時間には他の学年の児童と一緒に遊んでたくさん交流ができます。他の学年の児童とドッジボールや、大縄とびを楽しむ姿を見かけます。

2つ目は、たてわり班活動があることです。全学年の児童が1～8班に分かれてドッジボール大会やスーパー鬼ごっこ、あいさつ運動などを行いま

す。班のみんなで協力して行うので学年などは関係なく仲良くなれます。

3つ目は、ひたち郷土かるた大会があることです。かるた大会は、各学年でチームをつくり、リーグごとに戦います。大会前には、休み時間にたくさん練習します。本番では、他の学年や地域の方と戦うこともありますが、学年などは気にせずに、どのチームもリーグ優勝を目指して戦います。

中小路小学校は、学年を超えて仲の良い小学校です。そして、♪楽しい学校 中小路♪（校歌）です。そんな中小路小学校をこれからも大切にしていきたいです。



中小路小学校 6年  
関叶恩さん



郷土かるた大会の様子



## 地 域とともにラグビーを盛り上げたい 日立 Sun Nexus 茨城が優勝を報告

1月22日、社会人ラグビーチーム「日立 Sun Nexus 茨城」の選手らが市役所を訪れました。日立 Sun Nexus 茨城は、トップイーストリーグBグループ2023シーズンで7勝1敗の成績を収め、見事初優勝。小川市長に優勝を報告したゼネラルマネージャーの湯浅直幸さんは「さらに上のリーグワン参入を目指し、チームの競技力を上げるとともに、地域と共にラグビーを盛り上げていきたい」と今後の意気込みを語りました。



## 陸 400m 走 元日本代表の高野さん 市内の中高中生に「走り方」を伝授

1月28日、日立陸上クラブが高野 進さん（東海大学教授）を招き、フットサルグリーンひたちで「走り方」講習会を実施しました。高野さんは陸上400m走でオリンピックに3回出場。バルセロナ大会では60年ぶりに陸上短距離で決勝進出という偉業を成し遂げました。講習会には市内の中学・高校生48人が参加し、力を入れずに自然にスピードが上がる走り方を体験。高野さんの論理的な指導を、参加者は熱心に聞いていました。

## 長 年の貢献を称えて 人権擁護委員の内村さんに感謝状を贈呈

1月23日、人権擁護委員として12年以上活動してきた内村美紀子さんに、水戸地方法務局日立支局の小林支局長と小川市長から感謝状が贈呈されました。人権擁護委員は、地域における人権侵害の相談や啓発などを行うボランティアです。内村さんはこれまで、学校などと協力して、人権に関する授業や書道展、SOS ミニレターの配布活動などを実施してきました。「子どもたちと意見の交換ができる、とても楽しい時間でした」と振り返りました。



## ス ポーツ競技用備品の整備へ 明治安田生命保険相互会社が市に寄附

1月29日、明治安田生命保険相互会社から、市民運動公園のスポーツ競技用備品の整備を目的とした寄附金33万4,000円をいただきました。この寄附は、明治安田グループの従業員と会社が行った「私の地元応援募金」プロジェクトの一環として寄せられたものです。小川市長から感謝状を受け取った同社水戸支社長の中平泰弘さんは、寄附について「未来ある子どもたちのために活用していただきたい」と話しました。

